

新聞に躍る見出し 「記録的大雨」「観測史上1位」「数十年に一度」

気象庁は、8月14日、前線の活発化により「これまでに経験がないような大雨になっている」として、九州北部に「警戒レベル5」にあたる大雨特別警報を発表。1時間に50ミリ以上の激しい雨が降り続くことで、さらに危険な状況になる。コロナ禍での避難については「避難所に限らず、親戚や知人の家などに避難することも考えて」と話しています。

1時間に50ミリの雨とは気象用語で非常に激しい雨、「滝のように降る雨」というイメージです。台風から変わる低気圧の影響で、8月9日函館市戸井泊では1時間の降水量が61.5ミリを記録、土砂災害の恐れがあることから、地区住民に対して避難指示が出されています。

市町村が発令する避難情報には3段階あります。最も危険度が高いのが警戒レベル5です。この段階ではすでに災害が発生している状況にあり、命を守る行動が求められています。従って、警戒レベル3「高齢者等避難」と警戒レベル4「避難指示」が避難する上では重要な避難情報になります。警戒レベル4までの段階で、速やかに危険な場所から全員が安全な場所に、安全に避難することが住民に求められています。

『台風』が教えてくれたこと

熊本 昇さん (久根別)

東京2020オリンピックで日本選手の大活躍を報じる記事と、「台風10号あす関東接近、太平洋側荒天に警戒」「道南大雨、函館で避難指示」の見出しをみながら原稿を書いています。台風の報道に接して私が必ず頭に浮かぶのは1954年9月の「洞爺丸台風」です。

台風と私の家族

居住地は七飯町字大沼。父は国鉄職員、職場が函館本線軍川(いくさがわ)駅。現在の大沼駅です。8人家族でしたが姉は松前町に就職したので、父母(50歳代)・私(高2軍川～函館間汽車通学)・弟(中3、小5、小3)・妹(中1)の7人、鉄道官舎での賑やかな暮らしでした。

私たちの住宅は、一年前に駅長官舎の新築移転で空いた部屋数の多い一戸建て、転居を喜んでいました。ガラス戸を擁した長い縁側つきの家は風通しがよく、暑い夏の日でも子どもたちが将棋や読書を楽しめる広い建物、あずましくて大変好評でした。

9月26日午後5時頃、それまでの強い風と激しい雨が突如として弱まり、奇妙な明るささえも感じられ、台風は去ったかと思われました。ところが、2時間後の午後7時過ぎから、これまでに経験したことのない突風と豪雨で家屋が揺れ始め、家族は右往左往の連続でした。

そして、あの縁側のガラス戸が飛んできたトタンで破られ、風雨が家中に舞い込んできたのです。

母の指導で畳を起こして立て掛け、和裁で使っているアイロン台、洗い張り用のばん板で補強し、さらに勉強机を置き、子どもたちが必至で押さえました。ガラスの破片で血を流す弟を他の弟や妹が懸命に手当てしました。

父は非番の日でしたが召集がかかり、駅舎の保全・列車の運行・乗降客の誘導安全に努めていたと思われます。そんななか同僚と官舎の見回りをする影も見ました。ずぶ濡れの合羽にあご紐の帽子、黒く汚れた軍手で懐中電灯を回し、ガンバシの合図をして職場に戻る“父の凜とした姿”は、これ以上ない心強いものでした。一睡もしない恐怖の夜は明けていったのです。

<台風が教えてくれたこと>

- 家族が力を合わせることで。一人ひとりができることは必ずあります。それを出し合い、認め合うことが大事です。
- 地域の一人ひとりが手を結ぶことです。つなぎ合って一緒に歩きましょう。核家族化が進むいま、「近所や地域とともに」の思いが生活を支えます。
- 自然に対して畏敬の気持ちを持ち続けることです。科学的根拠に基づいた冷静さと謙虚な姿勢を求めて、日ごろの学び合いを続けましょう。
- 命の大切さに敏感であることは基本です。函館駅やホームで通学時に目にした御遺族の悲しみの姿は、台風報道を見聞きするたび、まざまざと脳裏に描かれます。忘れてはならないことです。

縄文人が愛した高台・海岸段丘

北海道・北東北の縄文遺跡群が7月27日、世界文化遺産に登録決定。函館や道南には今回登録された大船遺跡、垣の島遺跡以外にもたくさんの縄文遺跡がある。北斗市には最も古い矢不來の館野2遺跡などをはじめ90か所以上の縄文遺跡があり、これらの遺跡に共通することは高台(海岸段丘)に立地していることである。段丘の高さはいずれも30m以上。高潮や津波の危険性のない安全な場所だったに違いない。

津波ハザードマップ(防災地図)に示された避難場所はいずれも高台にあり、縄文人の集落も中世の道南12の館の一つである茂別館(茂辺地)なども海岸段丘の高台を利用している。今の時代にとって、また、共生にもとづく安全・安心なまちづくりを進めるうえで、縄文人の精神文化や先人の知恵に学ぶこともたくさんありそうである。

※北斗市縄文展のお知らせ！ 10月6日(水)～26日(火)、北斗市総合文化センター

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111(内線212) Fax 73-6970 メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp